

史跡・名勝 嵐山

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
二〇一三―七

史跡・名勝
嵐山

2013年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

史跡・名勝 嵐山

2013年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、集合住宅建設工事に伴う史跡・名勝 嵐山の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

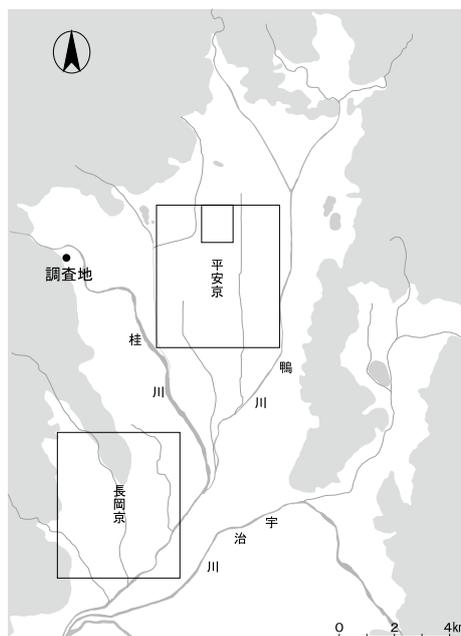
平成25年12月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 史跡・名勝 嵐山
- 2 調査所在地 京都市西京区嵐山中尾下町地内
- 3 委 託 者 株式会社アクセス都市設計 代表取締役 湯浅勝也
- 4 調査期間 試掘調査：2013年9月4日～2013年9月20日
発掘調査：2013年10月1日～2013年10月25日
- 5 調査面積 試掘調査：241㎡、発掘調査：103㎡
- 6 調査担当者 南出俊彦
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「嵐山」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 南出俊彦
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
3. 試掘調査	4
(1) 遺 構	4
4. 発掘調査	9
(1) 遺 構	11
(2) 遺 物	12
5. ま と め	13

図 版 目 次

図版1 遺構	1 試掘調査1トレンチ全景（北西から）
	2 試掘調査2トレンチ全景（南西から）
	3 試掘調査2トレンチ 畦と耕作地（北西から）
図版2 遺構	1 試掘調査3トレンチ全景（北東から）
	2 試掘調査3トレンチ下層状況断面（南東から）
	3 試掘調査4トレンチ全景（南西から）
	4 試掘調査5トレンチ全景（南西から）
図版3 遺跡	1 発掘調査区全景（北西から）
	2 発掘調査区 旧流路3断面（南東から）

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：500）	2
図3	調査前全景（南西から）	3
図4	調査風景（南東から）	3
図5	試掘調査区平面図（1：200）	5
図6	試掘調査1・2トレンチ断面図（1：100）	6
図7	試掘調査3トレンチ断面図（1：100）	7
図8	試掘調査4・5トレンチ断面図（1：100）	8
図9	発掘・試掘調査区平面図（1：200）	9
図10	発掘調査区断面図（1：100）	10
図11	発掘調査区旧流路3断面図（1：50）	11
図12	発掘調査出土遺物	12

表 目 次

表1	遺構概要表	11
表2	遺物概要表	12

史跡・名勝 嵐山

1. 調査経過

本調査は、史跡・名勝嵐山の指定地内で集合住宅が新築されるのに先立って行った試掘・発掘調査である。

調査にあたっては京都府教育庁指導部文化財保護課・京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という。）の指導により、委託を受けて、試掘・発掘調査を財団法人京都市埋蔵文化財研究所（2013年10月1日から公益財団法人に移行。）が実施することになった。

試掘調査は、設計図面をもとに東西に1本、それに直交するように南北に4本のトレンチを設定した。東西方向の調査区を1トレンチ、南北方向の調査区を北から2～5トレンチとした。

重機で表土を掘削した後、人力で遺構検出、攪乱掘り下げなどを行い、写真撮影、図面作成などを行った。耕作土層掘下げおよび下層遺構確認のための断割りには再度重機を用い、作業の効率化を図った。調査の結果、耕作地・畦・流路などを検出した。

その成果を受け、京都府および京都市文化財保護課の行政指導を仰いだ。その結果、嵐山地区で

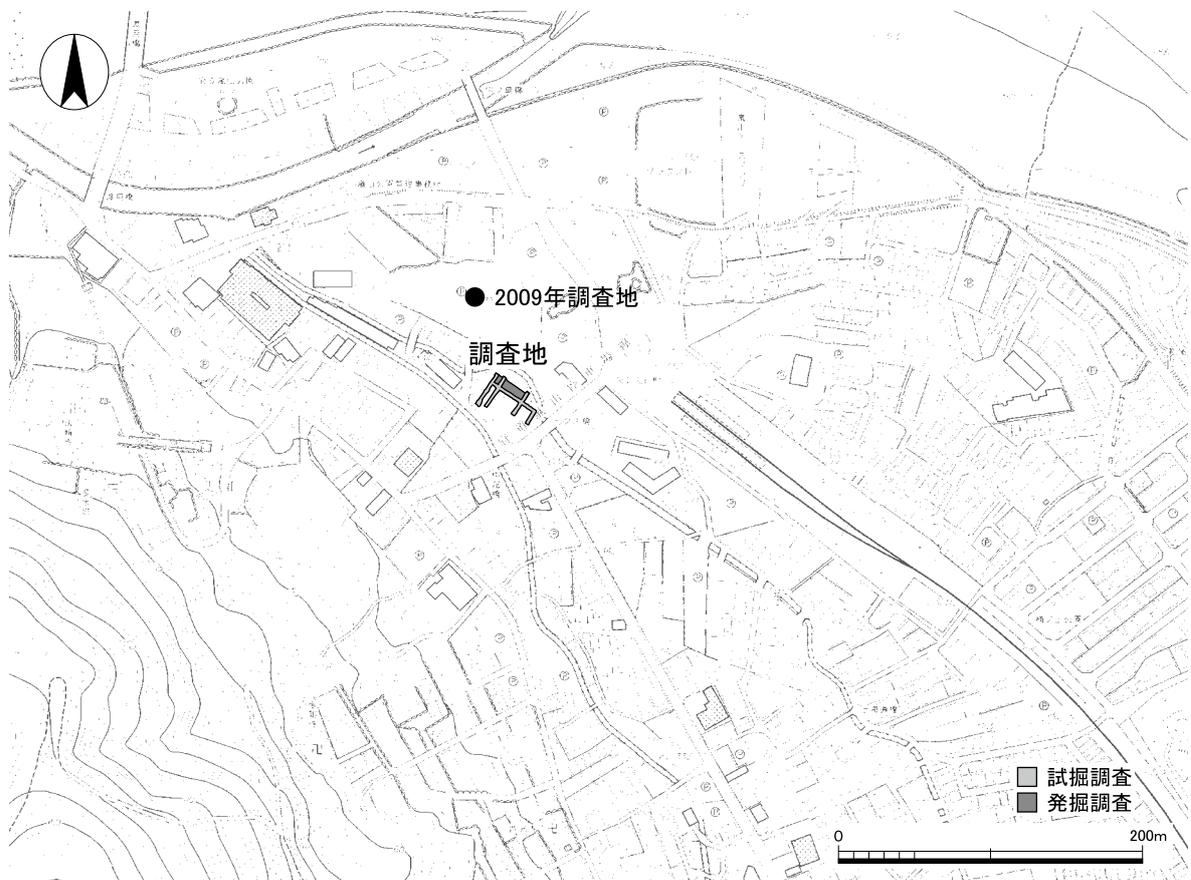


図1 調査位置図（1：5,000）

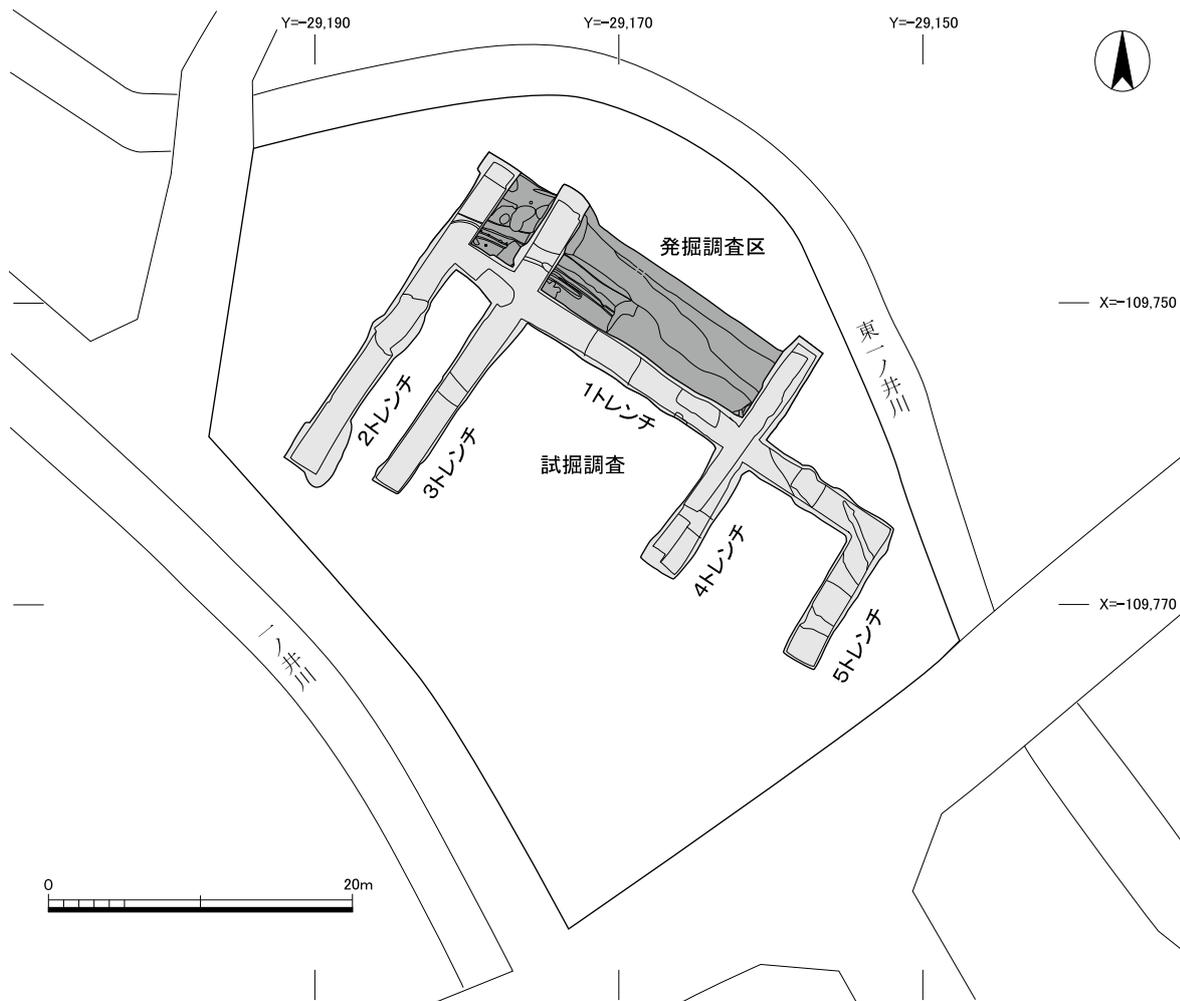


図2 調査区配置図 (1 : 500)

の桂川右岸の開発の歴史を知るうえで重要であると判断され、1トレンチ西壁を西端、2トレンチ北壁を北端、4トレンチ南壁を南端、東端は2～4トレンチ東壁を結ぶ調査区を設定し、発掘調査を行うよう指導があった。

発掘調査は、重機で表土を除去した後、人力で遺構検出、攪乱・遺構掘り下げなどを行い、写真撮影・図面作成などを行った。なお、掘削土は場内で処理した。

調査終盤で京都市文化財保護課の指導を仰ぎ、当地での土地利用のあり方が今回の調査によって確認できたとして、これ以上の調査は行わないとの判断があり調査を終了した。

2. 位置と環境

調査地は、京都市西京区嵐山中尾下町に所在しており、渡月橋付近一帯の景勝地である史跡・名勝の指定範囲に含まれている。当地は、渡月橋の南東約300m、東から南へと流れを変える桂川と松尾山に挟まれた狭隘な場所に位置している。地形分類図によれば、桂川右岸の自然堤防の南側の谷底・氾濫平野上に立地している¹⁾。調査地の北側には東一ノ井川、南側には一ノ井川が流れている。

調査地の周辺は、嵐山左岸に比べて遺跡の分布密度が低い。奈良時代に創建されたと伝えられる法輪寺、立会調査によって確認された平安時代の嵐山谷ヶ辻子町遺跡が知られるのみである²⁾。

平安時代の班田図によると葛野郡の条里が調査地付近に施行されており、古代には葛野郡の山田郷に属していたものと考えられる。そのほか付近には旧葛野郡の四大幹線の一つ、四条街道が存在する。また、調査地の北側の東一ノ井川と南側を流れる一ノ井川は、法輪寺橋下流を取水口とし、桂川中流域の諸荘園を灌漑するために中世に開鑿された桂川用水の一つである。

なお、当地から東一ノ井川をはさんだ北側では発掘調査が2009年に行われ、江戸時代の土坑、室町時代末期の洪水跡、鎌倉時代から室町時代の水田・畦畔・溝・土坑などの耕作関連遺構を検出している³⁾。

註

- 1) 京都府編『地形分類図』 京都西北部 1981年
- 2) 加納敬二・小檜山一良・平田 泰ほか『京都嵯峨野の遺跡－広域立会調査による遺跡調査報告－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 3) 木下保明・櫻井みどり『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008－14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009年



図3 調査前全景（南西から）



図4 作業風景（南東から）

3. 試掘調査

(1) 遺構 (図5～8)

基本層序

基本層序は、現地表下約0.2mまでが現代の盛土、黄褐色砂泥と暗灰黄色シルトとの混土（旧盛土）、灰色シルト（江戸時代末から近代耕土）、黄灰色シルトとオリーブ褐色砂泥との混土（上記耕土に伴う床土）で、以下地山となる。地山は、にぶい黄褐色砂泥と暗褐色砂質土を主とする氾濫原とみられる堆積である。

遺構

トレンチごとに遺構の状況を述べる。

1 トレンチでは、大半が攪乱を受けていたが、北部では水田とみられる耕作地、南部では流路とみられる落ち込みの肩部を検出した。

2・3 トレンチでは、東半部で畦、流路とみられる落ち込みを検出した。西半部は耕作地であった。1～3 トレンチで検出した耕土上面の標高は33.1～33.2mである。

4 トレンチは東端で流路とみられる落ち込みを検出した。西半部は他と同様耕作地であるが、ここでは上下2層の耕作土を確認した。耕土それぞれの上面の標高は1層目が33.2m、2層目が32.6mであった。

5 トレンチでも流路と考えられる落ち込みの西肩部と上下2層の耕作土を確認した。ただし、1層目の耕土層は削平を受けたものと考えられる。2層目の耕土上面の標高は32.9mであった。

この調査では、遺物は出土しなかった。

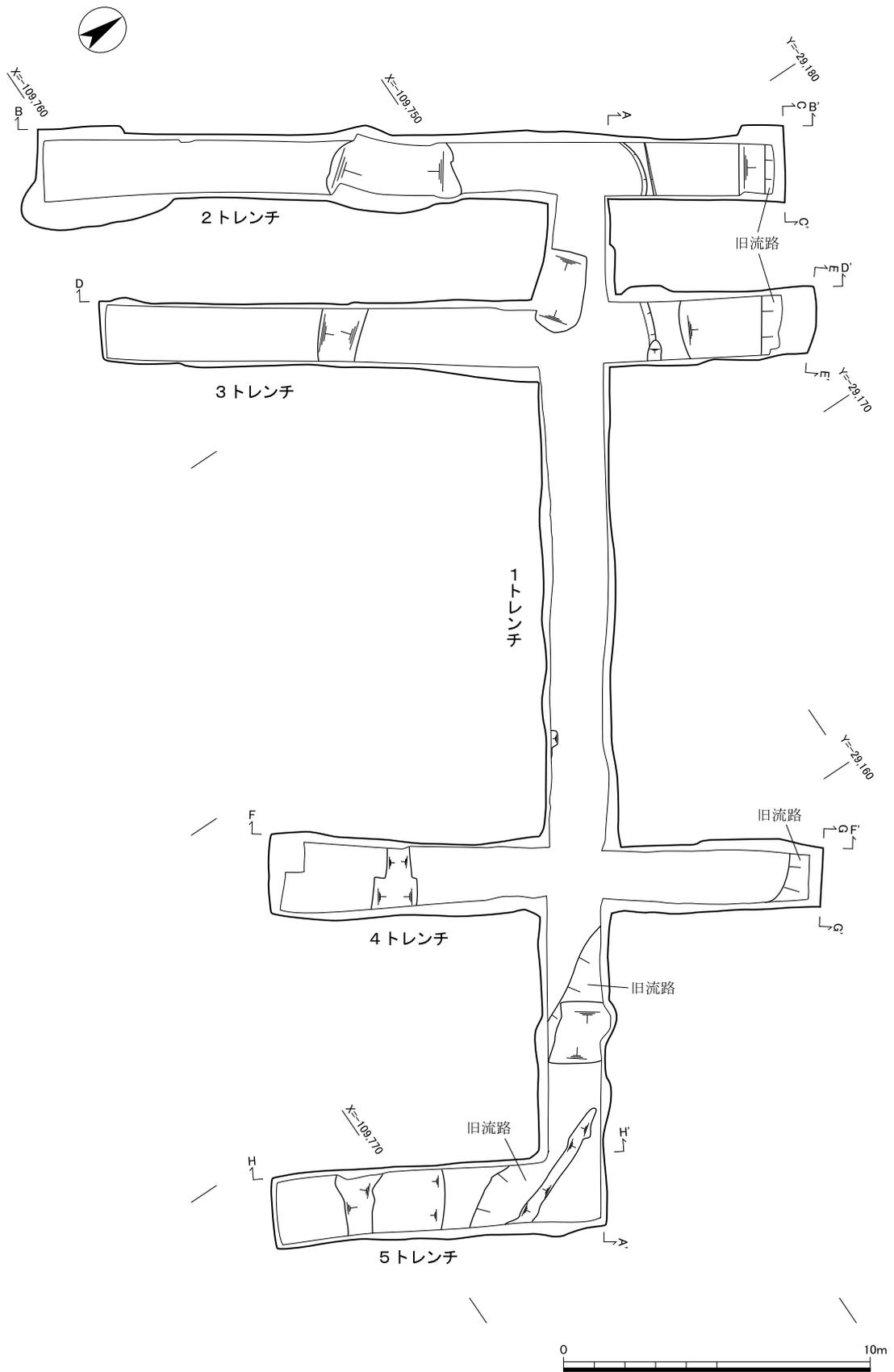


図5 試掘調査区平面図 (1 : 200)

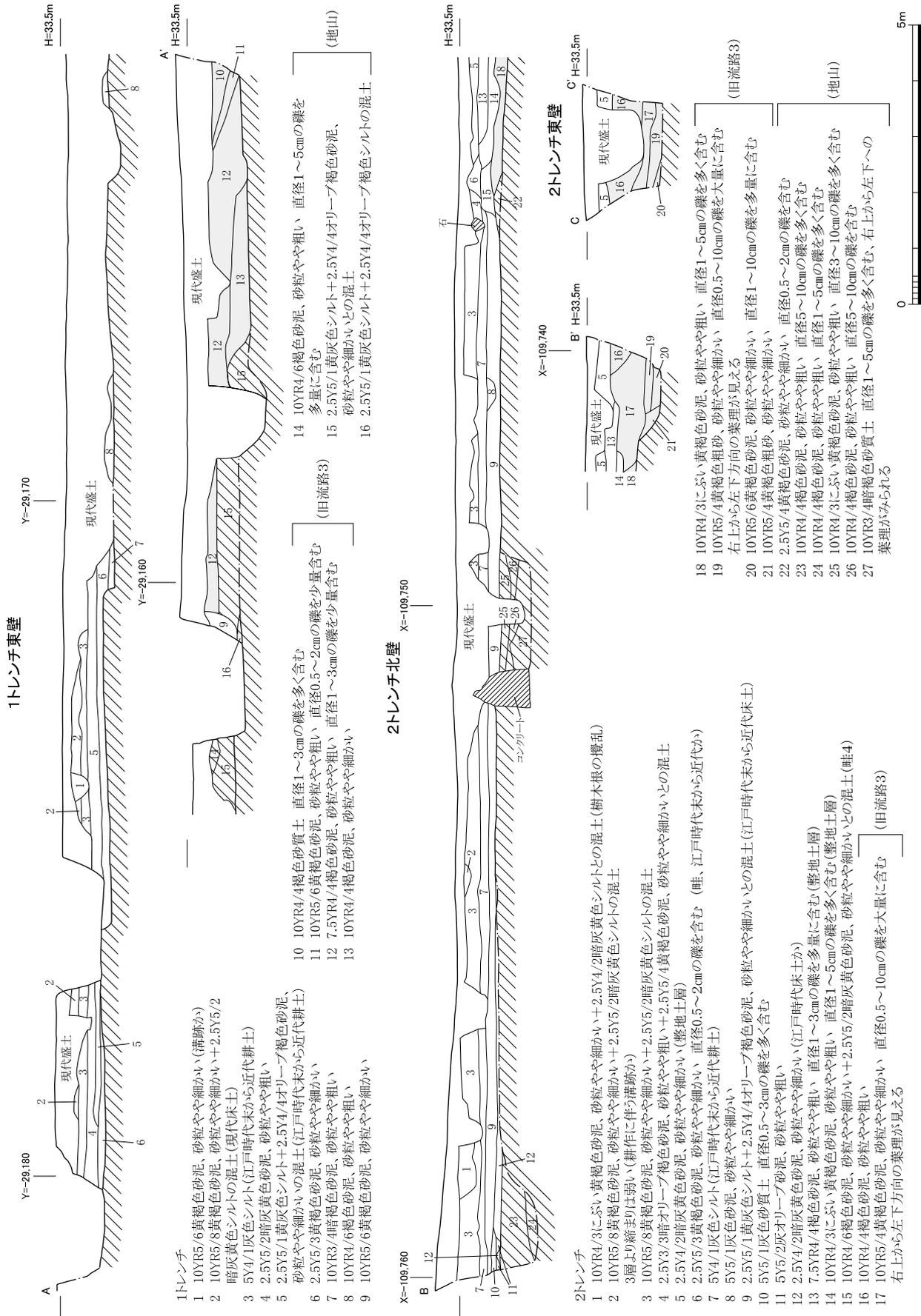


図6 戦国調査1・2トレンチ断面図 (1:100)

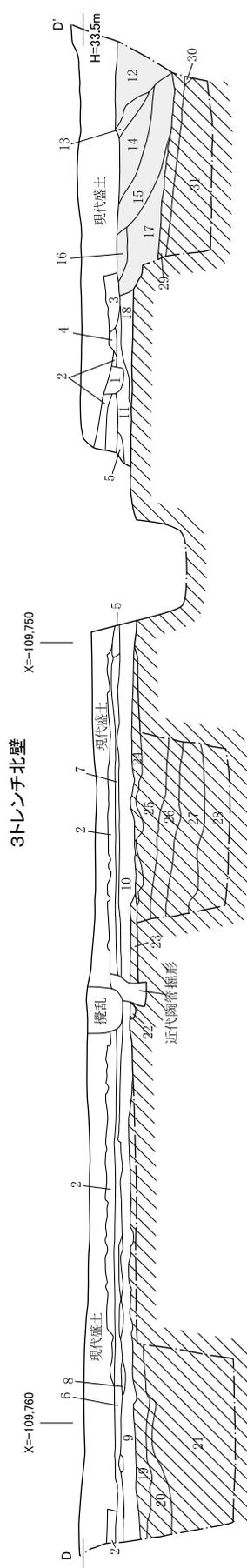


図7 試掘調査3トレンチ断面図 (1:100)

- 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径0.5~10cmの礫を多く含む
- 2 5Y4/1灰色シルト(江戸時代末から近代耕土)
- 3 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや粗い
- 4 10YR6/8明黄褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 5 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥、砂粒やや細かい
- 6 10YR4/4褐色砂質土、直径0.5前後の礫を多く含む
- 7 2.5Y5/3黄褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 8 10YR5/2暗灰黄色砂泥、砂粒やや細かい、直径1~5cmの礫を少量含む
- 9 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥、砂粒やや細かい、直径1~5cmの礫を少量含む
- 10 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1cmの礫を少量含む
- 11 2.5Y5/1黄灰色シルト+2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径0.5~10cmの礫を多く含む
- 12 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径0.5~10cmの礫を多量に含む
- 13 7.5YR3/3暗褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径0.5~10cmの礫を多量に含む
- 14 10YR3/3暗褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径0.5~10cmの礫を多量に含む
- 15 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径0.5~3cmの礫を含む
- 16 10YR3/4暗褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~5cmの礫を多量に含む
- 17 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~5cmの礫を多量に含む

- 18 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径0.5~10cmの礫を多く含む(整地土層)
- 19 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥、直径1~10cmの礫を多く含む
- 20 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質土、直径0.5~10cmの礫を多量に含む、30cm前後の礫も含む
- 21 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥、砂粒やや細かい
- 22 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 23 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 24 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂、直径0.5~5cmの礫を多量に含む
- 25 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1cmの礫を含む
- 26 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂、直径3~5cmの礫を多量に含む
- 27 10YR4/4褐色砂質土、直径1~3cmの礫を多く含む、15cm前後の礫も含む
- 28 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや粗い+2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、砂粒やや粗いと、の混土
- 29 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~5cmの礫を多量に含む
- 30 10YR4/6褐色砂質土
- 31 10YR3/4暗褐色粗砂、直径1~10cmの礫を多量に含む

(地山)

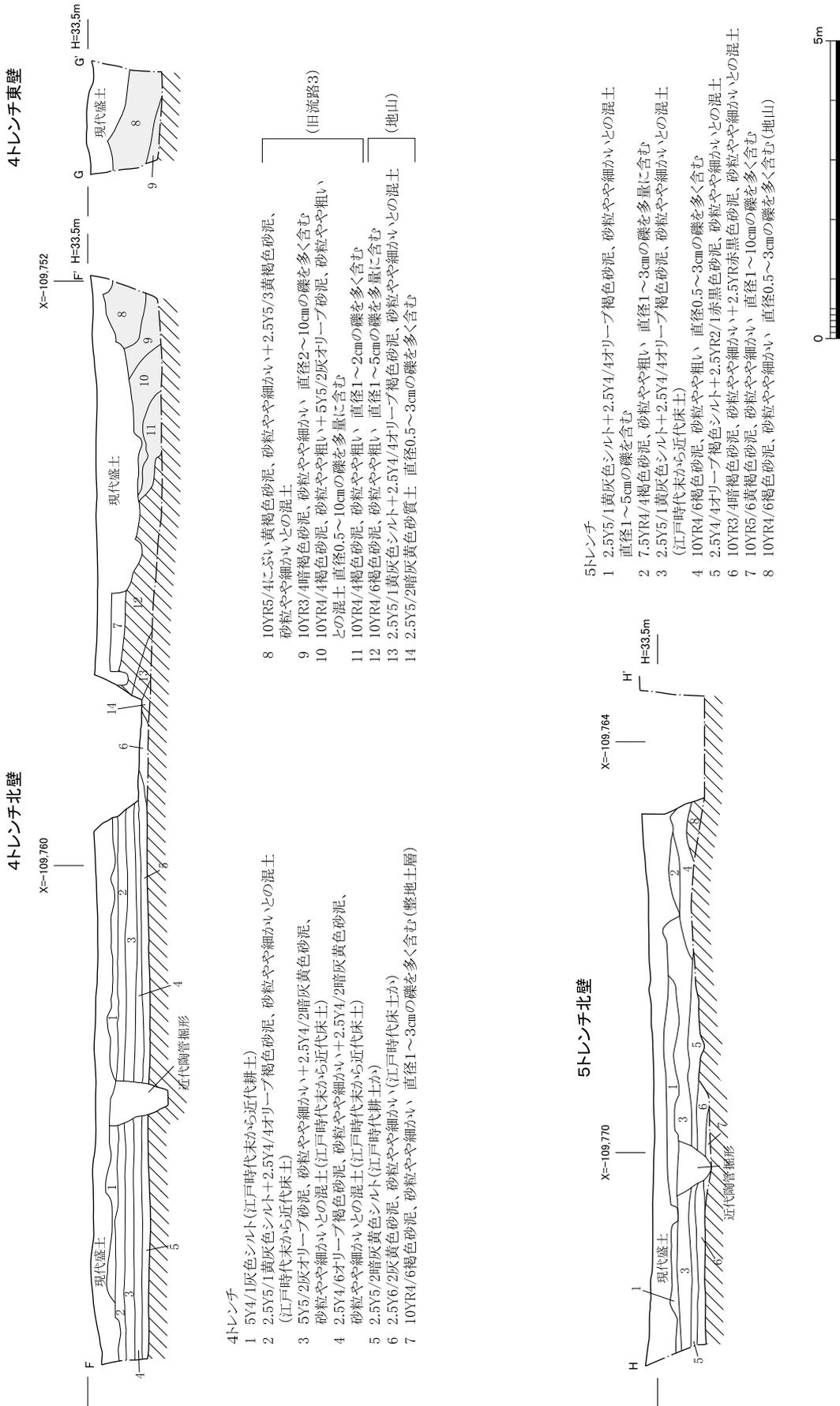


図8 発掘調査4・5トレンチ断面図(1:100)

4. 発掘調査

先の試掘調査の成果に基づいて行った調査である。先にも述べたように、1トレンチ西壁を西端、2トレンチ北壁を北端、4トレンチ南壁を南端、東端は2～4トレンチ東壁を結ぶ調査区を設定した。

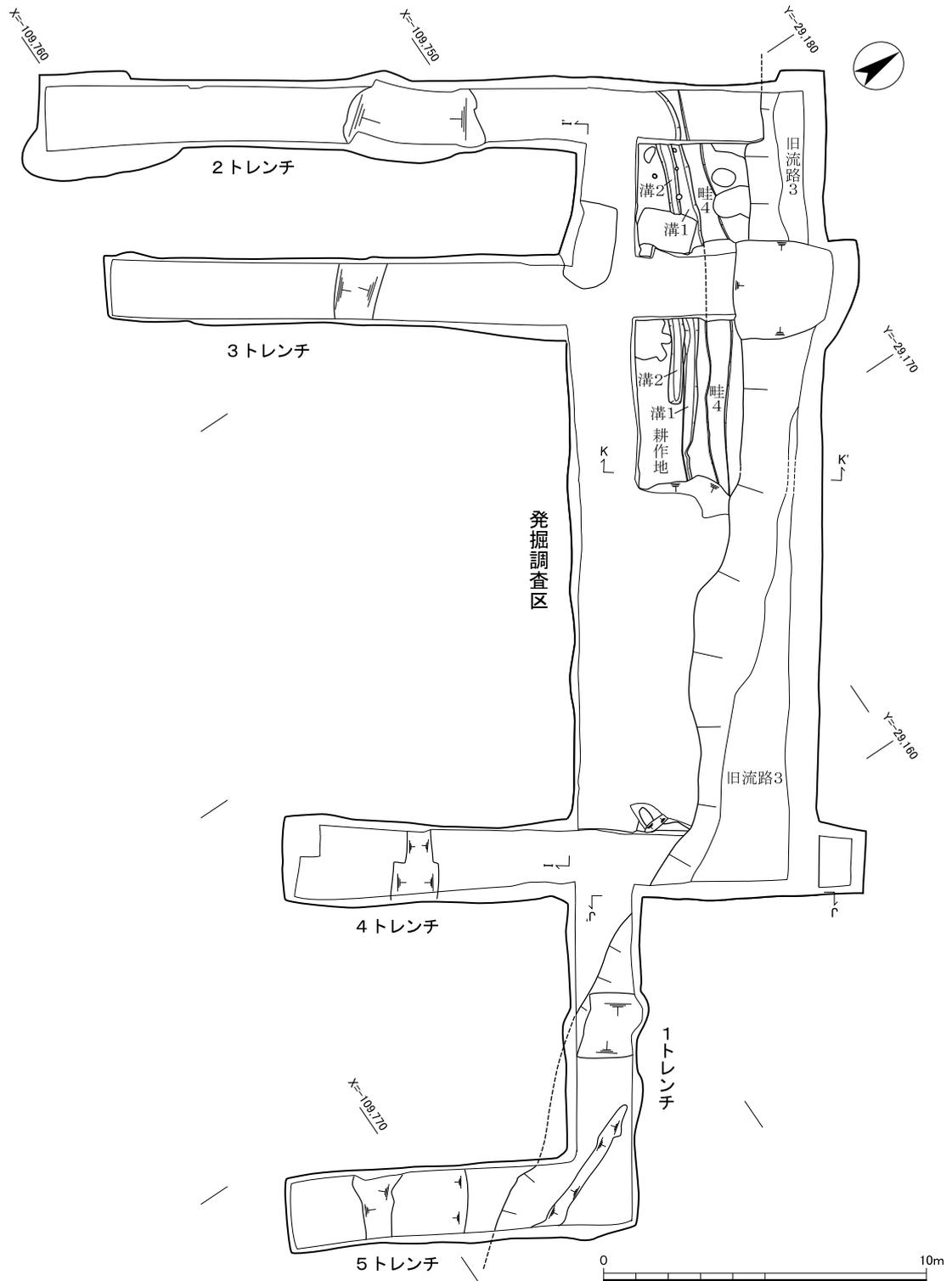
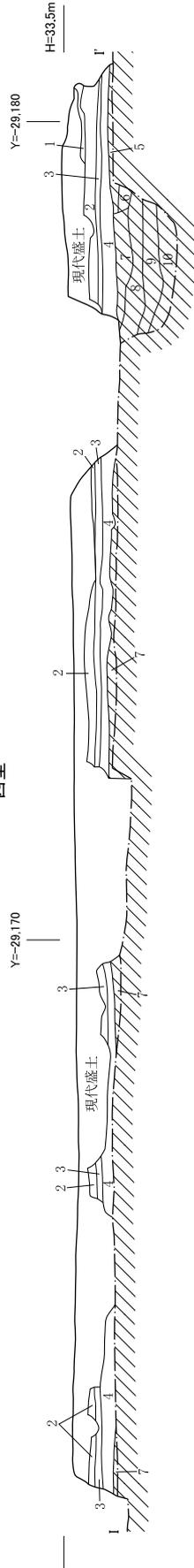


図9 発掘・試掘調査区平面図 (1 : 200)

西壁

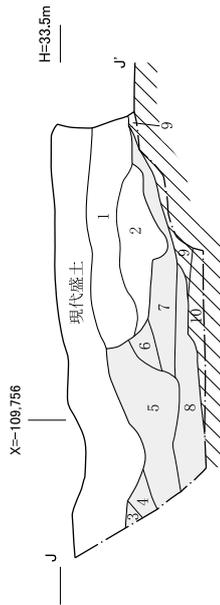


西壁

- 1 10YR5/8黄褐色極細砂+2.5Y5/2暗灰黄色シルトとの混土、マンガン分を含む、攪拌を受けている(床土)
- 2 5Y4/1灰色シルト、マンガン分を多く含む(耕土)
- 3 2.5Y5/1にぶい黄灰色シルト+2.5Y4/4オリーブ褐色シルトとの混土(床土)
- 4 2.5Y4/2暗灰黄色細砂、マンガン分を多く含む(床土)
- 5 10YR4/6褐色細砂、マンガン分を多く含む
- 6 7.5YR4/4褐色極細砂、マンガン分を多く含む
- 7 5Y4/2灰オリーブ色極細砂、直径1~10cmの礫を多く含む、マンガン分を多く含む
- 8 2.5Y5/4茶褐色極細砂、直径2~5cmの礫を含む
- 9 5Y4/2灰オリーブ色中砂、直径3~10cmの礫を多量に含む
- 10 10YR6/6明黄褐色中砂、直径3~10cmの礫を多量に含む

(地山)

南壁



南壁

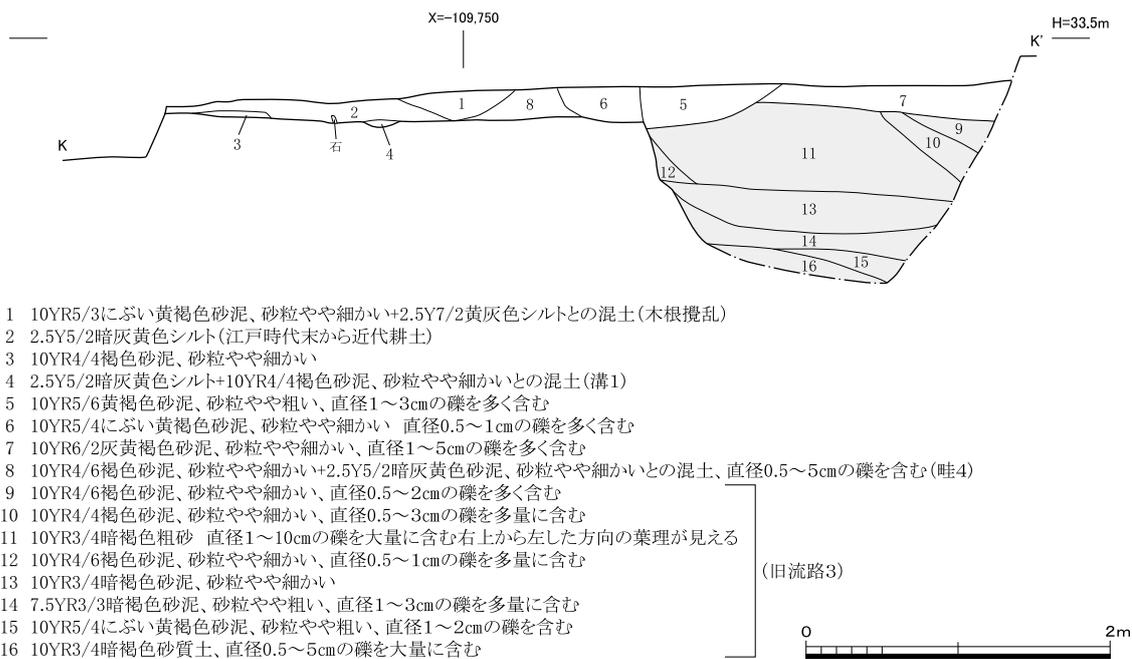
- 1 10YR5/6黄褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径1~10cmの礫を多く含む
- 2 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径0.5~3cmの礫を含む
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや細かい+2.5Y5/3黄褐色砂泥、砂粒やや細かいとの混土
- 4 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい+2.5Y5/3黄褐色砂泥、砂粒やや細かいとの混土、直径1~3cmの礫を含む
- 5 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 6 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~2cmの礫を含む
- 7 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~5cmの礫を含む
- 8 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径2~10cmの礫を多く含む
- 9 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径1cm前後の礫を含む
- 10 10YR4/6褐色砂質土

(旧流路3)

(地山)



図10 発掘調査区断面図 (1 : 100)



- 1 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや細かい+2.5Y7/2黄灰色シルトとの混土(木根攪乱)
- 2 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(江戸時代末から近代耕土)
- 3 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 4 2.5Y5/2暗灰黄色シルト+10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや細かいとの混土(溝1)
- 5 10YR5/6黄褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~3cmの礫を多く含む
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径0.5~1cmの礫を多く含む
- 7 10YR6/2灰黄褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径1~5cmの礫を多く含む
- 8 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい+2.5Y5/2暗灰黄色砂泥、砂粒やや細かいとの混土、直径0.5~5cmの礫を含む(畦4)
- 9 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径0.5~2cmの礫を多く含む
- 10 10YR4/4褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径0.5~3cmの礫を多量に含む
- 11 10YR3/4暗褐色粗砂 直径1~10cmの礫を大量に含む右上から左した方向の葉理が見える
- 12 10YR4/6褐色砂泥、砂粒やや細かい、直径0.5~1cmの礫を多量に含む
- 13 10YR3/4暗褐色砂泥、砂粒やや細かい
- 14 7.5YR3/3暗褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~3cmの礫を多量に含む
- 15 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、砂粒やや粗い、直径1~2cmの礫を含む
- 16 10YR3/4暗褐色砂質土、直径0.5~5cmの礫を大量に含む

図11 発掘調査区旧流路3断面図 (1:50)

(1) 遺構 (図9~11)

基本層序

基本層序は試掘調査と同様であり、記述は省略する。

遺構

現代の盛土を除去した面を遺構面とした。現代の耕土は削平されたと考えられ、残っていなかった。江戸時代末から近代の遺構がみられ、調査区の西部では耕作地、東部では畦、旧流路などを検出した。

江戸時代末から近代の耕土の厚さは0.2m前後である。耕土層からは土製品が出土した。耕土を除去すると耕作に伴う溝(過剰な水分を抜くための溝)2条(溝1・2)を検出した。調査区の東端部では旧流路3を検出した。全容は明らかではない。

溝1 検出長11m、幅0.4m前後、検出面からの深さ0.06~0.09mである。

溝2 検出長8m、幅0.4m前後、検出面からの深さ0.05m前後である。溝の南端はY=-29,172、X=-109,750付近で終息している。

旧流路3 調査区の東端を南北方向に貫いている。調査では西肩を検出し、東肩は調査区外とな

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
江戸時代末~近代	溝1・2、畦4	
時期不明	旧流路3	

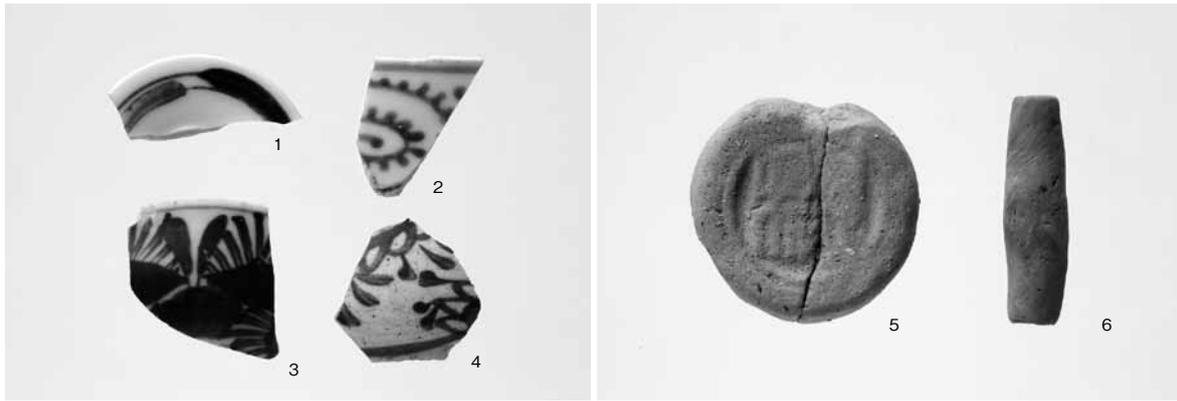


図12 発掘調査出土遺物

り全容は明らかではない。検出長24m、幅3m以上、検出面からの深さ1.3mである。11層（図11）の上部から土師器、瓦器の小片が出土した。

畦4 溝1と旧流路3との間で検出し、旧流路の西肩に沿って南北方向に設けられている。検出長11m、幅0.3～0.7mである。溝1・2と共に耕作地を構成するものであり、また旧流路3と耕作地の境界を画する遺構である。

試掘2トレンチ北壁断面観察によれば畦4は頂部を削られて平坦となり、直上に現代の耕作地に伴う畦が作り直されている。

（2）遺物（図12）

今回出土した遺物は、整理箱で1箱ある。主な遺物は鎌倉時代から室町時代の瓦器、江戸時代末から近代の土師器・施釉陶器・染付などがあるが、いずれも小片で数も少ない。その他には土錘・泥面子などの土製品が出土した。土師器・瓦器などは旧流路3の11層（図11）の上位から出土した。これらの遺物の表面は磨滅が著しい。

1～3は染付、4は施釉陶器、5は泥面子、6は土錘である。いずれも江戸時代末から近代の耕土から出土した。

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
鎌倉時代～室町時代	瓦器				
江戸時代末～近代	土師器、施釉陶器、染付、土製品		施釉陶器1点、染付3点、土製品2点		
合計		2箱	6点（1箱）	1箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

5. ま と め

史跡・名勝嵐山では、これまでに多くの調査が行われているが、その大半は桂川左岸であり、右岸では少ない。今回の調査地は、東一ノ井川の西にあたる。本調査地の北約60mで行った2009年の調査では、近世の洪水跡や中世の耕作地などを確認しており、近接地の当調査地でも遺構の存在が予想された。

調査の結果、当初想定していた中世の耕作地跡や江戸時代の洪水跡などは確認できなかった。しかしながら、当地は江戸時代末から近代の畦を伴う耕作地であったことを確認した。耕土は上・下2層あり、試掘調査1～3・4トレンチの1層目の標高はほぼ同一であり、4・5トレンチで確認した2層目の標高もほぼ同一であることから一筆の耕地（水田）であった可能性が高い。2層目の時期を特定できる遺物の出土が見られなかったため不明であるが、近世に属するものと考えておきたい。また、調査区東端部に流路があったことを明らかにした。時期は特定できなかったが、現在、調査地の北側を流れる東一ノ井川の旧河道であったと考えられる。明治22年測量の仮製地形図に記されている東一ノ井川は直線的に流れており、何らかの理由で現状のように調査地の北側を大きく迂回するように変更されたものと考えられる。

圖 版



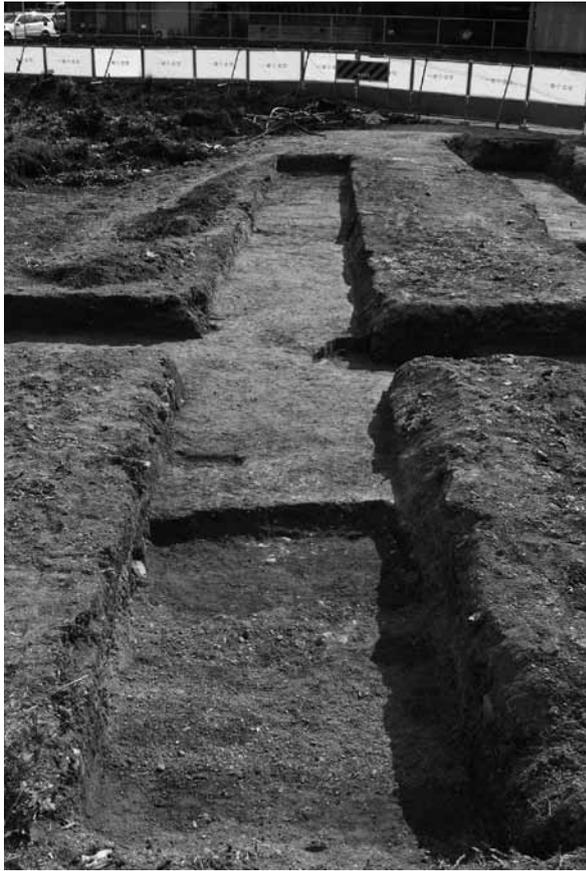
1 試掘調査1トレンチ全景（北西から）



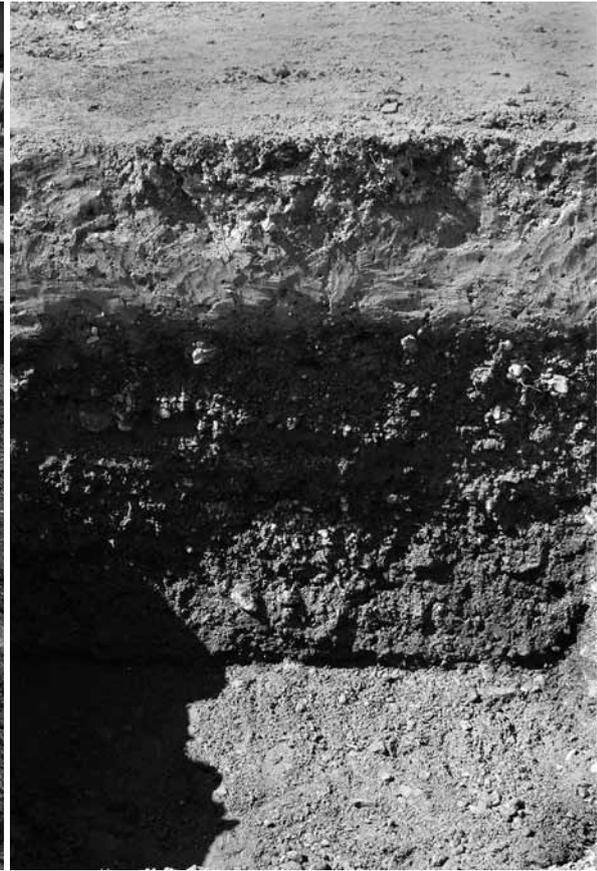
2 試掘調査2トレンチ全景（南西から）



3 試掘調査2トレンチ 畦と耕作地（北西から）



1 試掘調査3トレンチ全景（北東から）



2 試掘調査3トレンチ下層状況断面（南東から）



3 試掘調査4トレンチ全景（南西から）



4 試掘調査5トレンチ全景（南西から）



1 発掘調査区全景（北西から）



2 発掘調査区 旧流路3断面（南東から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせき・めいしょう あらしやま							
書名	史跡・名勝 嵐山							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2013-7							
編著者名	南出俊彦							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2013年12月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせき・めいしょう 史跡・名勝 あらしやま 嵐山	きょうとしにしきょうく 京都市西京区 あらしやまなかおしたちよう 嵐山中尾下町 ちない 地内	26100	A953	35度 00分 37秒	135度 40分 49秒	試掘調査 2013年9月 4日～2013 年9月20日 発掘調査 2013年10月 1日～2013 年10月25日	試掘調査 241m ² 発掘調査 103m ²	集合住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡・名勝 嵐山	史跡・ 名勝	鎌倉時代 ～室町時代		瓦器				
		江戸時代末 ～近代	溝、畦	土師器、施釉陶器、染 付、土製品				
		時期不明	旧流路					

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-7

史跡・名勝 嵐山

発行日 2013年12月27日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961